

令和5年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	3	学校名	奈良高等学校
----	---	-----	--------

1. 事業内容について

取組・活動・事業名等	地域連携センター「平城山（ならやま）」事業
教育課程上の位置付け・目標又は活動のねらい	学校行事として実施 地域住民や団体との連携・協働による地域活動の活性化
連携・協働相手	平城東中学校区小・中学校・こども園、朱雀地区自治連合会、地域教育協議会、朱雀地区自治防災防犯協議会
地域と共有している目標・課題等	少子高齢化の進む地域における住民活動の活性化、交流促進
取組・活動の内容（生徒の主体性、具体的活動、連携・協働内容など）	
<p>地域連携センター平城山では、上記の目的を果たすため、1年間にわたり地域連携活動を行った。</p> <p>5月「朱雀こども園交流」、6月「小学生対象プログラミング講習」、「朱雀音楽祭」、「SS作戦」、8月「朱雀地区夏祭り」、9月「青丹祭（文化祭）」、10月「奈高を知ろう」、「朱雀こども園交流」、11月「キッチンカーフェスタ」、12月「地域に根ざした商品開発・販売」、1月「わくわくフェスティバル in 奈高」</p> <p>1年間にわたる地域との連携・協働の活動により、地域の方々に奈良高校の特色や魅力を知っていただくだけでなく、生徒自らが多くの方とともに企画・運営することで、地域をコーディネートする力の育成につながった。</p> <p>今後は、それぞれの取組を精選・改善して、本校生徒が広く体験する場面を創出し、地域の方々の優しさや地域課題に気づく機会を得て、さらには他人への感謝や相手を気遣うような繊細で温かい心を育み、本校生徒の成長に繋げられるよう工夫していく。</p>	

2. 事業の成果と課題

<p>本校校舎を朱雀に移転して2年が経過した。初年度に設置した地域連携センターが中心になって、生徒とともに様々な事業や取組を企画し、具体化してきた。催しの度に、全ての生徒・教職員に呼びかけて参加を募り、多くの成果を得てきたが、参加した生徒の一人が、「奈良高校のことを知ってもらっただけでなく、地域のことをもっと知りたい。」という感想を聞き、この発想が今後の地域連携事業の方向性を示す指針となると確信している。</p>
--

